

Affordable & Sustainable

連載

第7回

NPとPAが活躍する大手薬局チェーンの簡易診療所(続編)

～常識を覆した発想で成功～

はじめに

アメリカは、世界最先端医療が受けられる一方で、診療予約制度、慢性的な家庭医不足により、日常的な病気やけがで、家庭医の即日予約が取りにくいのが現状です。そこで、休日も含めて予約なしでちょっと医療機関にかかりたいな、という市場のニーズに応えたのがナースプラクティショナー（以下、NP）やフィジシャンアシスタント（以下、PA）が常駐する大手薬局チェーンの簡易診療所です。

今回は、簡易診療所の続編*としてプライマリーケアのニッチ市場に乗り込むミニット・クリニックについて話を進めていきます。

*前編にあたる『医事業務』2019年11月1日号（No.571）33頁「ナース・プラクティショナーが常駐して診療する大手薬局チェーンの簡易診療所」で、CVS薬局のミニット・クリニックを写真入りで紹介していますので、ぜひご覧ください。

イノベイティブな 簡易クリニックの概念

ミニット・クリニックが誕生する2000年頃は、医師の診療予約が入らないときは、病気やけがの重症度にかかわらずERに受診（ER以外の選択肢がほとんどなかった）という考えが定着していました。そのため病院のERは、有・無保険患者、軽症から重症患者でいつも混雑していました。

病院は、維持費の高いERの軽減に、ERの隣や外来診療施設にアージェント・ケア診療所（予約不要、外来で高度な病気・けがの応急処置まで対応）を開設しました。アージェント・ケア診療所は、待ち時間がERより短いのが受けて、ERの代わりに受診する患者さんが増えました。

しかし、アージェント・ケア診療所は、何らかの理由で保険が適応されない、あるいは無保険の

アフォーダブルとサステナブルの 視点から見たアメリカの医療

ノースカロライナ州 RTP チャペル・ヒルより

河野圭子

ノースカロライナ州保険部認定 SHIP カウンセラー
アメリカ病院経営士会認定病院経営士
薬剤師（日本）

場合には、自費では気軽にかかれません。アーティスト・ケア診療所も含めてアメリカの一般的な医療機関は、現在に至っても患者さんの自己負担額がアフォーダブルかどうかは、本人の保険も問題として、特に考慮しません（アメリカの健康保険の自己負担額は、保険によってまちまちであり、0～10割自己負担、定額自己負担など）。

そこで、患者さんの立場になって、日常的な病気やけがで、すぐに自費でもかかれれる医療施設として、簡易クリニックが考え出されました。簡易クリニックは、当時の医療業界の常識を覆した診療所としてその行方が注目されました。それでは、ミニット・クリニックの誕生から現在までの軌跡をたどってみましょう。

ミニット・クリニックの誕生から 現在までの軌跡

地元のニーズに応えて医師と看護師が立ちあがった

2000年、ミネソタ州のセントポールに、地元住民のニーズから医師と看護師が、日常的な病気の際に予約なしでかかれれる簡易クリニックを目指して、クイック・メデックス・センター（ミニット・クリニックの前身）を立ち上げました。ここでは7症状（風邪、へんとう炎、ぼうこう炎、耳・副鼻腔感染など）の診療に絞りました。自費払いが条件でしたが、ERより自己負担が安い低診療価格が受け、利用者が急増しました。

この人気は、地元の大手雇用主の注目を集めました。雇用主たちは、職員が必要な時にクイック・メデックス・センターにかかれるように、グループ健康保険に働きかけてクイック・メデックス・センターを保険の契約医療機関に加えてもらいました。2003年にクイック・メデックス・センターから現在のミニット・クリニックに改名されました。

ミニット・クリニックは、急成長を遂げる中、CVS社（現在はCVS・ヘルス社）と組んで、ミネアポリス（ミネソタ州）とボルティモア（メリーランド州）のCVS薬局内にミニット・クリ

図表1：ミニット・クリニックの診療メニュー

診療価格⇒



アクセス後、下のほうまで
スクロールしてください。

病気：風邪、へんとう炎、頭痛、腹痛、はやり目、耳・副鼻腔感染など（診察料金99～139ドル）

けが：ねん挫、関節炎、虫刺されなど

各種健診：一般健康診断、職業健診、スポーツ・部活健診（25～44ドル）、就学時健康検診

血液検査：HbA1c、コレステロール検査（59～69ドル）

各種予防接種、渡航医療相談、メンタルケア、生活習慣病のモニタリング

ニックを開設しました。これが現在に至る「薬局内の簡易クリニック」ビジネスモデルの原型になりました。2006年にCVS社は、ミニット・クリニックを買収し、簡易クリニックで初めてジョイント・コミッション（医療機関認定機関）の認定を取得しました。

現在では、ミニット・クリニックは、33州とワシントンDCのCVS 薬局内とターゲット（全米規模の万能スーパー）の店舗内に1,100診療所が設置されています。NPとPAによるオンライン診療も行っています。

ミニット・クリニックは、全米一の規模を誇る連邦退役軍人ヘルスケアやカイザーパーマネンテ、大手健康保険会社の契約医療機関の指定を受け、大手医療グループとの提携でプライマリー・ケアの担い手として認識が高まっています。

ミニット・クリニックのノウハウ

①ニッチをねらった診療メニュー（図表1）

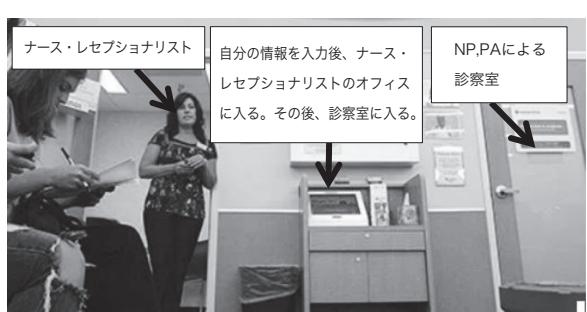
診療メニューは、家庭医の診療所では、すぐに対応できないような診療サービスに特化。

●日常的な病気・けが、慢性疾患の経過観察は、診療予約や自己負担の問題で受診を控える患者が多い →これらの診療をメニューに入れて、潜在患者層を囲い込み

●家庭医の予約待ちの長い各種健診、予防接種
→各種健診、予防接種に即日対応

連載 アffordable & Sustainable

図表2：ミニット・クリニックの受診フロー



www.darkdaily.comより

②患者さんが個人情報を入力

患者さんは、ミニット・クリニックに設置された受付デスク端末や自分のスマホ・PCから個人情報、健康保険情報、受診目的を入力して受付・予約を済ませます。これにより、事務手続きの軽減化が図れます。

③ナース・レセプションリストにタスク・シフティング

NPやPAは1人で事務業務、請求、支払い、診療のマルチタスクをこなしていましたが、その一部のタスクをナース・レセプションリスト（受付事務もこなすメディカル・アシスタントのような役割）にシフトすることで、診療にフォーカスできるようになりました。1診療時間は、10分から15分です。

患者さんは、ナース・レセプションリストのオフィスで、本人・健康保険情報確認、病歴入力、受診の目的確認、バイタルサイン測定や簡単な検査を受けた後、診療室に入り、NP、PAの診察を受けます（図表2）。

④NP、PAが診療前に患者負担金を徴収

一般的な家庭医の診療所は、受付時に事務スタッフが初・再診料を徴収します。処置・検査代は、保険請求してから患者負担金が判明するために、後日患者さんに請求書を送付します。時に、

予想外の請求額にショックを受ける患者さんも少なくありません。

それに対して、ミニット・クリニックはNP、PAが患者さんに問診後、必要な検査や処置を画面に入力すると、患者さんの健康保険に合った患者負担金が表示されます。この金額を患者さんからカード決済で徴収後、診療になります。ミニット・クリニックの診療料金は、ホームページに公開されているので、自費でも受診前に自己負担額を計算できるので安心してかかれます。

アメリカの医療は自由診療で診療価格が不透明なのに対して、ミニット・クリニックの「見える診療低価格」のコンセプトと、診療に従事するNP・PAが患者さんの負担額を伝えることで、法外な医療請求額にならない、という歯止めになり、患者さんから支持を得る大きなポイントになっています。

⑤全米で汎用されるEMR使用

ミニット・クリニックは、全米で最も広く使用されているEMRシステムのエピック（Epic）を導入しているので、患者さんの許可を得て、診療記録を患者さんの家庭医、専門医、病院と共有することができます。ミニット・クリニックが、大手医療グループと契約するにあたり、エピックは威力を発揮します。

⑥オール・イン・ワンを目指す

CVSヘルス社は、傘下にCVS薬局、大手民間健康保険会社のエトナ、大手外来薬剤給付会社（PBM）のケアマークを持ちます。そこで、エトナの健康保険の契約医療機関にミニット・クリニックを加え、ケアマークの契約薬局にCVS薬局を指定することで、ミニット・クリニックでの診療からお薬の受け取りまでの一連の医療をCVSヘルス社関連内の医療組織で固めることも可能です。

今後の展開

最近は、オバマケア施行により有保険者が増加する一方で、年間免責付きの保険が主流になり自己負担の高い保険が増えてきました。そこで、有保険者も自己負担も考えて受診先を選ぶようになりました。

ミニット・クリニックの見える診療価格とアフォーダブルな自己負担のコンセプトは、アメリカの健康保険のトレンドにも対応しています。アメリカに有保険者が増える中、従来の医療機関もミニット・クリニックのように新しいコンセプトを取り入れることが求められているのではないでしょうか。M

ミニット・クリニックの概要

ミニット・クリニック⇒ 

予約の取り方、診療メニューにもアクセスできます。

- 予約不要で平日、土日祭日に軽度な病気やけが、各種健康診断などでかかる。
- ナースプラクティショナー（NP）やフィジシャンアシスタント（PA）が診療に従事。
- 診察後には処方箋薬を CVS 店内の調剤薬局で受け取れる。
ただし、レントゲン施設がないので骨折や深刻なけがや病状ではかかれません。



エトナ社の「エ」に注目

本文に出てきたエトナ社のロゴは、aとeが一体化した曖昧母音の æ（驚いた時のえっ！の発音に類似）です。社名に発音記号を使うのは、何か意味があるのかなあと、気になっていた時、地元の古本屋さんで見つけた英語本に æ を発見しました。

ウィキペディアによると、「Æ（小文字：æ）は a と e からなる文字で、もともとはラテン語の二重母音 ae を表す合字であった。デンマーク語、ノルウェー語、アイスランド語などは文字に昇格している」と記載がありました。

さて、エトナ社の社名の由来は、イタリアのシシリー島にある当時活火山であったエトナ山に因んでいます。エトナ社は、社名の如く 1850 年に火災保険会社として誕生しました。当時のビルは、屋上部分が木造だったので、ビル全焼が多かったことから、火災保険の需要がありました。後に、南北戦争で生命保険を手掛け巨額の利益を得ました。損保ビジネスにも着手し、原爆のマンハッタン計画やアポロ月面着陸の宇宙飛行士の保険を引き受けました。

1990 年代には、健康保険の需要を見越して US ヘルスケア社、ブルデンシャル社の健康保険部門を買収して、エトナ社は一挙に全米を代表する大手医療保険会社になりました。エトナ社の一連の沿革から、火災・損保の免責額制がアメリカの健康保険にも取り入れられたのは、このような背景が関係するように感じられます。



エトナ社の社名ロゴ aetna.com より

gth arrived. Caesar
they, faithful to heir
boat to the land. He
of Asia Minor. He

ジュリアス・シーザーの歴史、ハーパー・ブレイズ社、1877年発行

※本稿の内容は情報提供を目的とするものであり、アドバイスやコンサルテーションを目的としていることをご了承ください。

●ホームページ：<https://e-kono.com>

今回の内容に関する情報やアメリカの医療について紹介しています。

プロフィール■河野圭子 米国病院経営士会認定病院経営士。薬剤師（日本）。ワシントン大学医療経営学部修士課程修了。フロリダ州サラソタ記念病院にて病院経営フェロー終了。アメリカの病院でビジネス開発アナリストや医療機関でボランティアを続けながら全米を縦横断し、現在は8州目のノースカロライナ州で認定メディケアクウンセラーとして活躍中。